

Document made available under the Patent Cooperation Treaty (PCT)

International application number: PCT/JP05/002809

International filing date: 22 February 2005 (22.02.2005)

Document type: Certified copy of priority document

Document details: Country/Office: JP
Number: 2004-048822
Filing date: 24 February 2004 (24.02.2004)

Date of receipt at the International Bureau: 28 April 2005 (28.04.2005)

Remark: Priority document submitted or transmitted to the International Bureau in compliance with Rule 17.1(a) or (b)



World Intellectual Property Organization (WIPO) - Geneva, Switzerland
Organisation Mondiale de la Propriété Intellectuelle (OMPI) - Genève, Suisse

01.4.2005

日 本 国 特 許 庁
JAPAN PATENT OFFICE

別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出 願 年 月 日 2 0 0 4 年 2 月 2 4 日
Date of Application:

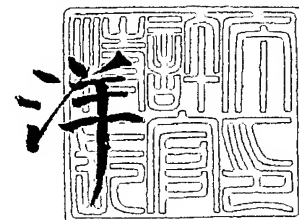
出 願 番 号 特 願 2 0 0 4 - 0 4 8 8 2 2
Application Number:
[ST. 10/C]: [J P 2 0 0 4 - 0 4 8 8 2 2]

出 願 人 マックス株式会社
Applicant(s):

2 0 0 5 年 2 月 2 3 日

特許庁長官
Commissioner,
Japan Patent Office

小 川



【書類名】 特許願
【整理番号】 M2004002
【提出日】 平成16年 2月24日
【あて先】 特許庁長官殿
【国際特許分類】 B65C 9/42
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都中央区日本橋箱崎町 6 番 6 号 マックス株式会社内
 【氏名】 内山 康幸
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都中央区日本橋箱崎町 6 番 6 号 マックス株式会社内
 【氏名】 田原 祥作
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都中央区日本橋箱崎町 6 番 6 号 マックス株式会社内
 【氏名】 佐野 千鶴男
【発明者】
 【住所又は居所】 東京都中央区日本橋箱崎町 6 番 6 号 マックス株式会社内
 【氏名】 山崎 章充
【特許出願人】
 【識別番号】 000006301
 【氏名又は名称】 マックス株式会社
【代理人】
 【識別番号】 100117020
 【弁理士】
 【氏名又は名称】 榊原 弘造
 【電話番号】 045-971-2906
【手数料の表示】
 【予納台帳番号】 144382
 【納付金額】 21,000円
【提出物件の目録】
 【物件名】 特許請求の範囲 1
 【物件名】 明細書 1
 【物件名】 図面 1
 【物件名】 要約書 1
 【包括委任状番号】 0301054

【書類名】 特許請求の範囲**【請求項 1】**

コンピュータがラベルプリンタに接続されなくてもコンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベルに印刷する第 1 の編集アプリケーションをラベルプリンタに設け、

コンピュータがラベルプリンタに接続されている時には、コンピュータに設けられた第 2 の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベルに印刷し、

コンピュータがラベルプリンタに接続されていない時には、前記第 1 の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベルに印刷することを特徴とするラベルプリンタ。

【請求項 2】

前記第 1 の編集アプリケーションが書き換え機能を具備することを特徴とする請求項 1 に記載のラベルプリンタ。

【請求項 3】

ラベルプリンタに時計機能を設け、前記第 1 の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベルに印刷する場合に、印刷が行われる時の日付をラベルに印刷することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のラベルプリンタ。

【書類名】明細書

【発明の名称】ラベルプリンタ

【技術分野】

【0001】

本発明は、ラベルプリンタに関し、特に、ラベルプリンタにコンピュータを接続することができない場所においても、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットでデータをラベルに印刷することができ、更に、ラベルプリンタにコンピュータを接続することができる場所においては、高速でデータを展開してラベルに印刷することができるラベルプリンタに関する。

【背景技術】

【0002】

従来から、リール状に巻回された台紙に貼り付けられた複数のラベルにデータを印刷するラベルプリンタが知られている。この種のラベルプリンタの例としては、例えば特開2003-26134号公報に記載されたものがある。

【0003】

ラベルにデータを印刷するラベルプリンタの中には、コンピュータに対して接続可能に構成されたものもある。コンピュータに接続可能に構成された従来のラベルプリンタでは、コンピュータに接続された状態で印刷が行われる場合に、コンピュータに設けられた編集アプリケーションが用いられる。詳細には、まず、コンピュータの編集アプリケーションによって編集されたデータがコンピュータのディスプレイにプレビューされる。次いで、オペレータによって印刷の指示が出されると、コンピュータにおいて、データが、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットに展開され、次いで、そのデータが接続ケーブルを介してラベルプリンタに送られる。次いで、ラベルプリンタにおいて、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットでデータがラベルに印刷される。

【0004】

一方、コンピュータに接続されていない状態で印刷が行われる場合には、ラベルプリンタは接続ケーブルを介してコンピュータからデータを受け取ることができない。そのため、従来のラベルプリンタにおいては、コンピュータの編集アプリケーションによってデータが編集されると、まず、その編集されたデータが記憶媒体に格納される。次いで、印刷すべき時に、その記憶媒体がラベルプリンタにセットされ、記憶媒体に格納されたデータが読み出される。ところが、従来のラベルプリンタには、コンピュータの編集アプリケーションが有するようなデータ展開機能が備えられていない。そのため、従来のラベルプリンタにおいては、記憶媒体から読み出されたデータを、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットに展開することができなかった。その結果、従来のラベルプリンタでは、ラベルプリンタにコンピュータを接続することができない場合に、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットでデータをラベルに印刷することができなかった。

【0005】

図5は従来のラベルプリンタを説明するための図である。詳細には、図5(A)および図5(B)はラベルプリンタがコンピュータに接続された状態で印刷が行われる場合を説明するための図、図5(C)および図5(D)はラベルプリンタがコンピュータに接続されていない状態で印刷が行われる場合を説明するための図である。

【0006】

ラベルプリンタがコンピュータに接続された状態で印刷が行われる場合には、上述したように、コンピュータに設けられた編集アプリケーションが用いられる。詳細には、まず、図5(A)に示すように、コンピュータの編集アプリケーションによって編集され、斜めに配列されたデータ「ABC」が、コンピュータのディスプレイ3にプレビューされる。図5において、L'はディスプレイ3上におけるラベルである。次いで、オペレータによって印刷の指示が出されると、コンピュータにおいて、データ「ABC」が、コンピュ

ータのディスプレイ 3 に表示されたフォーマット（つまり、データ「A B C」が斜めに配列されたフォーマット）とほぼ同様のフォーマットに展開され、次いで、そのデータが接続ケーブルを介してラベルプリンタに送られる。次いで、図 5（B）に示すように、ラベルプリンタにおいて、コンピュータのディスプレイ 3 に表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットでデータ「A B C」がラベル L に印刷される。

【0 0 0 7】

一方、ラベルプリンタがコンピュータに接続されていない状態で印刷が行われる場合には、上述したように、ラベルプリンタが接続ケーブルを介してコンピュータからデータを受け取ることができない。そのため、その場合には、図 5（C）に示すように、コンピュータの編集アプリケーションによってデータ「A B C」が編集されると、まず、その編集されたデータ「A B C」が記憶媒体に格納される。次いで、印刷すべき時に、その記憶媒体がラベルプリンタにセットされ、記憶媒体に格納されたデータが読み出される。ところが、従来のラベルプリンタには、コンピュータの編集アプリケーションが有するようなデータ展開機能が備えられていない。そのため、従来のラベルプリンタにおいては、記憶媒体から読み出されたデータ「A B C」を、コンピュータのディスプレイ 3 に表示されたフォーマット（つまり、データ「A B C」が斜めに配列されたフォーマット）とほぼ同様のフォーマットに展開することができない。その結果、従来のラベルプリンタでは、ラベルプリンタにコンピュータを接続することができない場合に、コンピュータのディスプレイ 3 に表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットでデータ「A B C」をラベル L に印刷することができず、図 5（D）に示すように予め定められたフレーム F 内に「A」，「B」，「C」が横一列に配列される限定されたフォーマットでデータ「A B C」がラベル L に印刷されてしまう。

【0 0 0 8】

【特許文献 1】特開 2 0 0 3 - 2 6 1 3 4 号公報

【発明の開示】

【発明が解決しようとする課題】

【0 0 0 9】

前記問題点に鑑み、本発明は、ラベルプリンタにコンピュータを接続することができない場所においても、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットでデータをラベルに印刷することができ、更に、ラベルプリンタにコンピュータを接続することができる場所においては、高速でデータを展開してラベルに印刷することができるラベルプリンタを提供することを目的とする。

【課題を解決するための手段】

【0 0 1 0】

請求項 1 に記載の発明によれば、コンピュータがラベルプリンタに接続されなくてもコンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベルに印刷する第 1 の編集アプリケーションをラベルプリンタに設け、コンピュータがラベルプリンタに接続されている時には、コンピュータに設けられた第 2 の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベルに印刷し、コンピュータがラベルプリンタに接続されていない時には、前記第 1 の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベルに印刷することを特徴とするラベルプリンタが提供される。

【0 0 1 1】

請求項 2 に記載の発明によれば、前記第 1 の編集アプリケーションが書き換え機能を具備することを特徴とする請求項 1 に記載のラベルプリンタが提供される。

【0 0 1 2】

請求項 3 に記載の発明によれば、ラベルプリンタに時計機能を設け、前記第 1 の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットにデータを展開してラベルに印刷することを特徴とするラベルプリンタが提供される。

ットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベルに印刷する場合に、印刷が行われる時の日付をラベルに印刷することを特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のラベルプリンタが提供される。

【発明の効果】

【0013】

請求項 1 に記載のラベルプリンタでは、コンピュータがラベルプリンタに接続されていない時には、ラベルプリンタに設けられた第 1 の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータが展開され、そのデータがラベルに印刷される。そのため、例えばラベルが貼り付けられる物が存在している場所のような、ラベルプリンタにコンピュータを接続することができない場所においても、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットでデータをラベルに印刷することができる。詳細には、例えばイメージデータ（ロゴ、罫線など）は、ラベルプリンタにおいてビットマップデータとして展開される。また、データがテキスト形式の場合には、例えばテキストと、文字サイズ、文字種などのテキスト情報がコンピュータから記憶媒体を介してラベルプリンタに送られ、ラベルプリンタにおいてビットマップフォントとして展開される。更に、ビットマップデータに、テキスト情報から生成されたビットマップフォントが貼り付けられて、出力用データが作成される。

【0014】

一方、コンピュータがラベルプリンタに接続されている時には、コンピュータに設けられた第 2 の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータが展開され、そのデータがラベルに印刷される。つまり、コンピュータがラベルプリンタに接続されている時には、ラベルプリンタに設けられた第 1 の編集アプリケーションを用いるのではなく、処理速度が比較的速い第 2 の編集アプリケーションを用いてデータが展開される。そのため、ラベルプリンタにコンピュータを接続することができる場所においては、ラベルプリンタに設けられた第 1 の編集アプリケーションを用いてデータが展開される場合よりも高速でデータを展開してラベルに印刷することができる。詳細には、例えばイメージデータ（ロゴ、罫線など）は、コンピュータにおいてビットマップデータとして展開される。また、データがテキスト形式の場合には、コンピュータにおいて例えば True Type フォントが展開される。

【0015】

請求項 2 に記載のラベルプリンタでは、ラベルプリンタに設けられた第 1 の編集アプリケーションに書き換え機能が備えられている。そのため、例えばラベルが貼り付けられる物が存在している場所のような、ラベルプリンタにコンピュータを接続することができない場所においても、コンピュータのディスプレイに表示されたデータを書き換えたデータをラベルに印刷することができる。詳細には、ラベルプリンタにおいて、例えばテキスト、バーコード、日付などのようなオブジェクトを編集することができる。

【0016】

請求項 3 に記載のラベルプリンタでは、ラベルプリンタに設けられた第 1 の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベルに印刷する場合に、印刷が行われる時の日付がラベルに印刷される。そのため、印刷すべきデータがコンピュータにおいて作成された時の日付と、印刷すべきデータがラベルプリンタによってラベルに印刷される時の日付とが異なる場合に、印刷すべきデータがコンピュータにおいて作成された時の日付ではなく、印刷が行われる時の日付をラベルに印刷することができる。好ましくは、例えばラベルが貼り付けられる物の製造年月日などのような、印刷が行われる時の日付が、ラベルプリンタの内蔵時計から取得されてラベルに印刷される。更に、好ましくは、コンピュータに設けられた第 2 の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベ

ルに印刷する場合には、例えば印刷すべきデータがコンピュータにおいて作成された時の日付が、コンピュータの内蔵時計から取得されてラベルに印刷される。

【発明を実施するための最良の形態】

【0017】

以下、本発明のラベルプリンタの第1の実施形態について説明する。図1は本発明のラベルプリンタの第1の実施形態の使用態様を説明するための図、図2は第1の実施形態のラベルプリンタを説明するための図である。詳細には、図2(A)および図2(B)はラベルプリンタがコンピュータに接続された状態で印刷が行われる場合を説明するための図、図2(C)および図2(D)はラベルプリンタがコンピュータに接続されていない状態で印刷が行われる場合を説明するための図である。図1および図2において、1は第1の実施形態のラベルプリンタ、2はラベルプリンタ1に接続可能なコンピュータ、4はラベルプリンタ1とコンピュータ2とを接続するための接続ケーブル、5は記憶媒体である。

【0018】

第1の実施形態のラベルプリンタ1では、図1(A)に示すように、コンピュータ2に接続された状態で印刷が行われる場合には、コンピュータ2に設けられた編集アプリケーションが用いられる。詳細には、まず、図2(A)に示すように、コンピュータ2の編集アプリケーションによって編集され、斜めに配列されたデータ「ABC」が、コンピュータ2のディスプレイ3にプレビューされる。次いで、オペレータによってコンピュータ2のキーボードを介して印刷の指示が出されると、コンピュータ2において、データ「ABC」が、コンピュータ2のディスプレイ3に表示されたフォーマット（つまり、データ「ABC」が斜めに配列されたフォーマット）とほぼ同様のフォーマットに展開され、次いで、そのデータが接続ケーブル4を介してラベルプリンタ1に送られる。次いで、図2(B)に示すように、ラベルプリンタ1において、コンピュータ2のディスプレイ3に表示されたフォーマット（図2(A)参照）とほぼ同様のフォーマットでデータ「ABC」がラベルLに印刷される。

【0019】

また、図1(B)に示すように、ラベルプリンタ1がコンピュータ2に接続されていない状態で印刷が行われる場合には、ラベルプリンタ1が接続ケーブル4を介してコンピュータ2からデータを受け取ることができない。そのため、図2(C)に示すように、コンピュータ2の編集アプリケーションによってデータ「ABC」が編集されると、まず、図1(B)に示すように、その編集されたデータ「ABC」が記憶媒体5に格納される。次いで、印刷すべき時に、その記憶媒体5がラベルプリンタ1にセットされ、記憶媒体5に格納されたデータ「ABC」が読み出される。

【0020】

従来のラベルプリンタとは異なり、第1の実施形態のラベルプリンタ1には、コンピュータ2の編集アプリケーションが有するようなデータ展開機能を備えた編集アプリケーションが設けられている。つまり、第1の実施形態のラベルプリンタ1には、コンピュータ2がラベルプリンタ1に接続されていなくてもコンピュータ2のディスプレイ3に表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベルLに印刷することができる編集アプリケーションが、コンピュータ2の編集アプリケーションとは別個に設けられている。

【0021】

そのため、上述したように、ラベルプリンタ1にセットされた記憶媒体5からデータ「ABC」が読み出されると、ラベルプリンタ1の編集アプリケーションが用いられる。それにより、記憶媒体5から読み出されたデータ「ABC」が、コンピュータ2のディスプレイ3に表示されたフォーマット（図2(C)参照）とほぼ同様のフォーマットに展開され、その展開されたデータ「ABC」が、図2(D)に示すように、ラベルLに印刷される。

【0022】

このように、第1の実施形態のラベルプリンタ1によれば、例えばラベルLが貼り付け

られる物が存在している現場のような、ラベルプリンタ 1 にコンピュータ 2 を接続することができない場所においても、コンピュータ 2 のディスプレイ 3 に表示されたフォーマット（図 2（C）参照）とほぼ同様のフォーマット（図 2（D）参照）でデータをラベル L に印刷することができる。

【0023】

詳細には、図 1（B）に示すように、例えばイメージデータ（ロゴ、罫線など）は、コンピュータ 2 から記憶媒体 5 を介してラベルプリンタ 1 に送られると、ラベルプリンタ 1 において、ラベルプリンタ 1 の編集アプリケーションによってビットマップデータとして展開される。また、データがテキスト形式の場合には、例えばテキスト、文字サイズ、文字種、位置などのテキスト情報が、コンピュータ 2 から記憶媒体 5 を介してラベルプリンタ 1 に送られると、ラベルプリンタ 1 において、ラベルプリンタ 1 の編集アプリケーションによってビットマップフォントとして展開される。更に、ラベルプリンタ 1 では、ビットマップデータに、テキスト情報から生成されたビットマップフォントが貼り付けられて、出力用データが作成される。

【0024】

第 1 の実施形態のラベルプリンタ 1 では、図 1（A）に示したように、ラベルプリンタ 1 がコンピュータ 2 に接続された状態で印刷が行われる場合には、コンピュータ 2 に設けられた編集アプリケーションが用いられる。それにより、コンピュータ 2 のディスプレイ 3 に表示されたフォーマット（図 2（A）参照）とほぼ同様のフォーマット（図 2（B）参照）にデータ「ABC」が展開され、そのデータ「ABC」がラベル L に印刷される。つまり、図 1（A）に示したように、コンピュータ 2 がラベルプリンタ 1 に接続されている時には、ラベルプリンタ 1 の編集アプリケーションを用いるのではなく、処理速度が比較的速いコンピュータ 2 の編集アプリケーションを用いてデータ「ABC」が展開される。そのため、ラベルプリンタ 1 にコンピュータ 2 を接続することができる場所においては、ラベルプリンタ 1 の編集アプリケーションを用いてデータ「ABC」が展開される場合よりも高速でデータ「ABC」を展開してラベル L に印刷することができる。詳細には、図 1（A）に示すように、例えばイメージデータ（ロゴ、罫線など）は、コンピュータ 2 においてビットマップデータとして展開される。また、データがテキスト形式の場合には、コンピュータ 2 において例えば True Type フォントが展開される。

【0025】

以下、本発明のラベルプリンタの第 2 の実施形態について説明する。第 2 の実施形態のラベルプリンタは、後述する点を除き、上述した第 1 の実施形態のラベルプリンタと同様に構成されている。そのため、後述する点を除き、上述した第 1 の実施形態のラベルプリンタと同様の効果を奏することができる。

【0026】

第 2 の実施形態のラベルプリンタでは、上述したラベルプリンタ 1 の編集アプリケーションに書き換え機能が備えられている。図 3 は第 2 の実施形態のラベルプリンタを説明するための図である。詳細には、図 3（C）および図 3（D）はラベルプリンタがコンピュータに接続されていない状態で印刷が行われる場合を説明するための図である。

【0027】

第 2 の実施形態のラベルプリンタでは、図 1（B）に示すように、ラベルプリンタ 1 がコンピュータ 2 に接続されていない状態で印刷が行われる場合には、図 3（C）に示すように、コンピュータ 2 の編集アプリケーションによってデータ「ABC」が編集されると、まず、図 1（B）に示すように、その編集されたデータ「ABC」が記憶媒体 5 に格納される。次いで、印刷すべき時に、その記憶媒体 5 がラベルプリンタ 1 にセットされ、記憶媒体 5 に格納されたデータ「ABC」が読み出される。

【0028】

第 2 の実施形態のラベルプリンタでは、ラベルプリンタ 1 にセットされた記憶媒体 5 からデータ「ABC」が読み出された時に、ラベルプリンタ 1 の編集アプリケーションの書き換え機能により、データ「ABC」を例えばデータ「ABD」に書き換えることができ

る。詳細には、オペレータがラベルプリンタ1の操作部を介して「C」を「D」に書き換えることにより、データ「ABC」をデータ「ABD」に書き換えることができる。それにより、書き換えられたデータ「ABD」が、コンピュータ2のディスプレイ3に表示されたフォーマット（図3（C）参照）とほぼ同様のフォーマットに展開され、その展開されたデータ「ABD」が、図3（D）に示すように、ラベルLに印刷される。

【0029】

このように、第2の実施形態のラベルプリンタによれば、例えばラベルが貼り付けられる物が存在している現場のような、ラベルプリンタ1にコンピュータ2を接続することができない場所においても、コンピュータ2のディスプレイ3に表示されたデータ「ABC」とは異なるデータ「ABD」をラベルLに印刷することができる。詳細には、ラベルプリンタ1において、例えばテキスト、バーコード、日付などのようなオブジェクトを編集することができる。

【0030】

以下、本発明のラベルプリンタの第3の実施形態について説明する。第3の実施形態のラベルプリンタは、後述する点を除き、上述した第1の実施形態のラベルプリンタと同様に構成されている。そのため、後述する点を除き、上述した第1の実施形態のラベルプリンタと同様の効果を奏することができる。

【0031】

第3の実施形態のラベルプリンタでは、図1（B）に示したように、ラベルプリンタ1の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータ2のディスプレイ3に表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータ「ABC」を展開してラベルLに印刷する場合に、印刷が行われる時の日付（例えば「2004. 2. 20」）がラベルLに印刷される。

【0032】

図4は第3の実施形態のラベルプリンタを説明するための図である。詳細には、図4（C）および図4（D）はラベルプリンタがコンピュータに接続されていない状態で印刷が行われる場合を説明するための図である。

【0033】

第3の実施形態のラベルプリンタでは、図1（B）に示すように、ラベルプリンタ1がコンピュータ2に接続されていない状態で印刷が行われる場合には、図4（C）に示すように、コンピュータ2の編集アプリケーションによってデータ「ABC」が編集されると、まず、図1（B）に示すように、その編集されたデータ「ABC」が記憶媒体5に格納される。次いで、印刷すべき時に、その記憶媒体5がラベルプリンタ1にセットされ、記憶媒体5に格納されたデータ「ABC」が読み出される。

【0034】

次いで、ラベルプリンタ1の編集アプリケーションが用いられ、それにより、記憶媒体5から読み出されたデータ「ABC」が、コンピュータ2のディスプレイ3に表示されたフォーマット（図4（C）参照）とほぼ同様のフォーマットに展開される。

【0035】

第3の実施形態のラベルプリンタでは、コンピュータ2のディスプレイ3に表示されたフォーマット（図4（C）参照）とほぼ同様のフォーマットにデータ「ABC」を展開してラベルLに印刷する場合に、図4（D）に示すように、展開されたデータ「ABC」に加えて、印刷が行われる時の日付「2004. 2. 20」がラベルLに印刷される。

【0036】

このように、第3の実施形態のラベルプリンタによれば、印刷すべきデータ「ABC」がコンピュータ2において作成された時の日付（例えば「2004. 2. 15」）と、印刷すべきデータ「ABC」がラベルプリンタ1によってラベルLに印刷される時の日付「2004. 2. 20」とが異なる場合に、印刷すべきデータ「ABC」がコンピュータ2において作成された時の日付「2004. 2. 15」ではなく、印刷が行われる時の日付「2004. 2. 20」をラベルLに印刷することができる。

【0037】

詳細には、第3の実施形態のラベルプリンタでは、例えばラベルLが貼り付けられる物の製造年月日などのような、印刷が行われる時の日付が、ラベルプリンタ1の内蔵時計から取得されてラベルに印刷される。更に、図1(A)に示したように、コンピュータ2の編集アプリケーションを用いることにより、コンピュータ2のディスプレイ3に表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベルLに印刷する場合には、例えば印刷すべきデータがコンピュータ2において作成された時の日付が、コンピュータ2の内蔵時計から取得されてラベルLに印刷される。

【0038】

第4の実施形態では、上述した第2および第3の実施形態を適宜組み合わせることも可能である。

【図面の簡単な説明】

【0039】

【図1】本発明のラベルプリンタの第1の実施形態の使用態様を説明するための図である。

【図2】第1の実施形態のラベルプリンタを説明するための図である。

【図3】第2の実施形態のラベルプリンタを説明するための図である。

【図4】第3の実施形態のラベルプリンタを説明するための図である。

【図5】従来のラベルプリンタを説明するための図である。

【符号の説明】

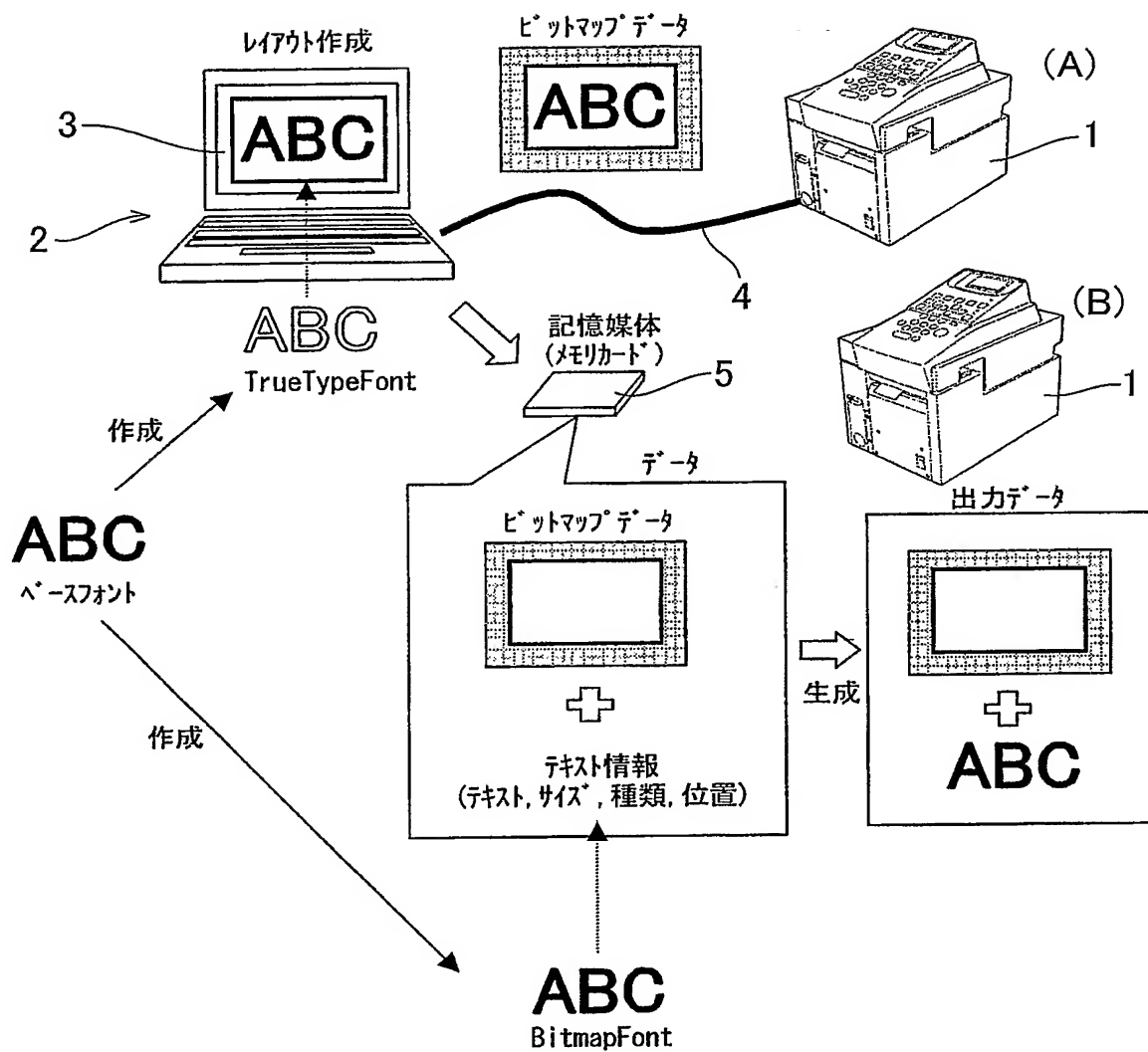
【0040】

- 1 ラベルプリンタ
- 2 コンピュータ
- 3 ディスプレイ
- 4 接続ケーブル
- 5 記憶媒体
- L ラベル

【書類名】 図面

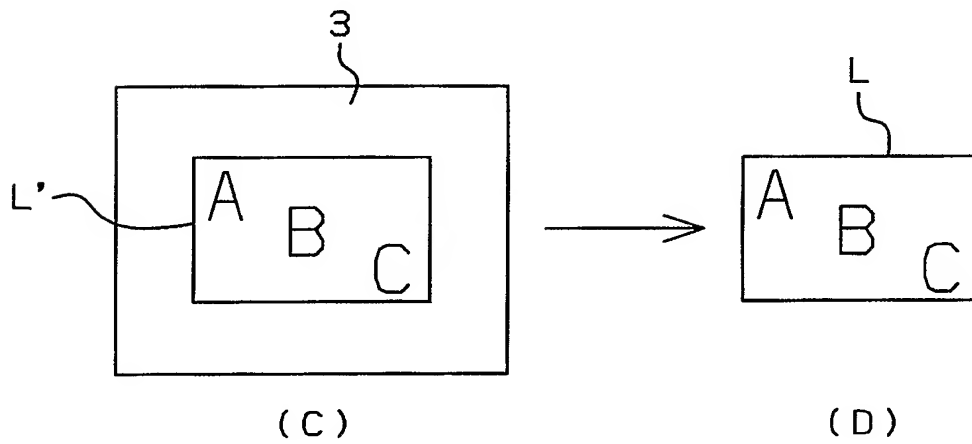
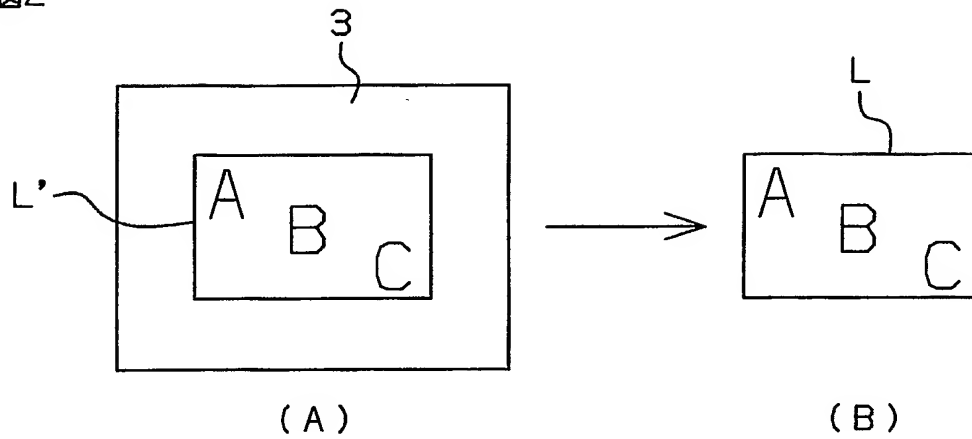
【図 1】

図 1



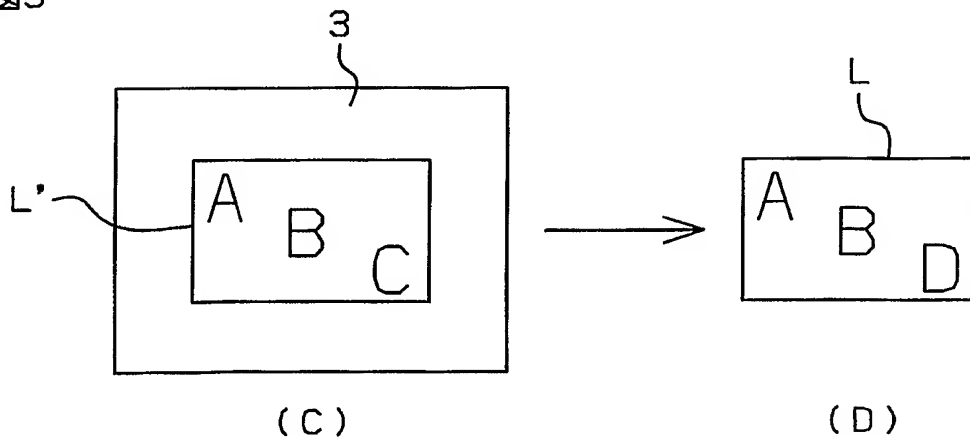
【図 2】

図2



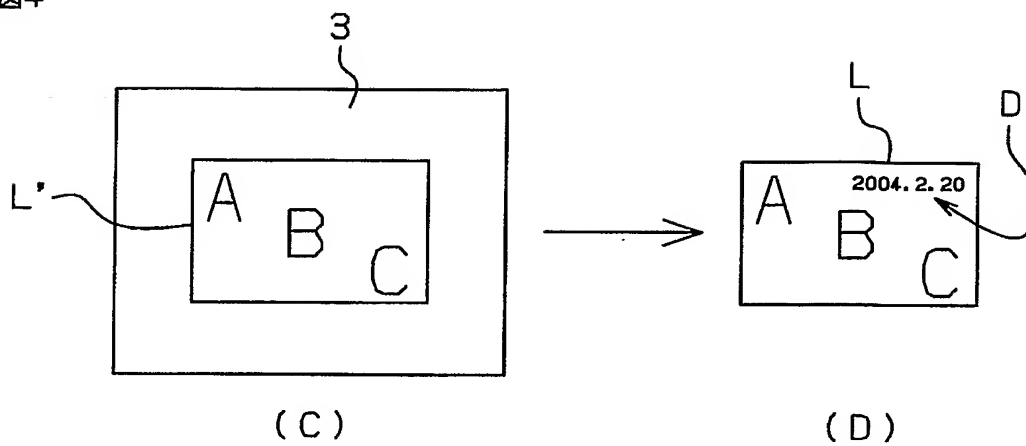
【図 3】

図3



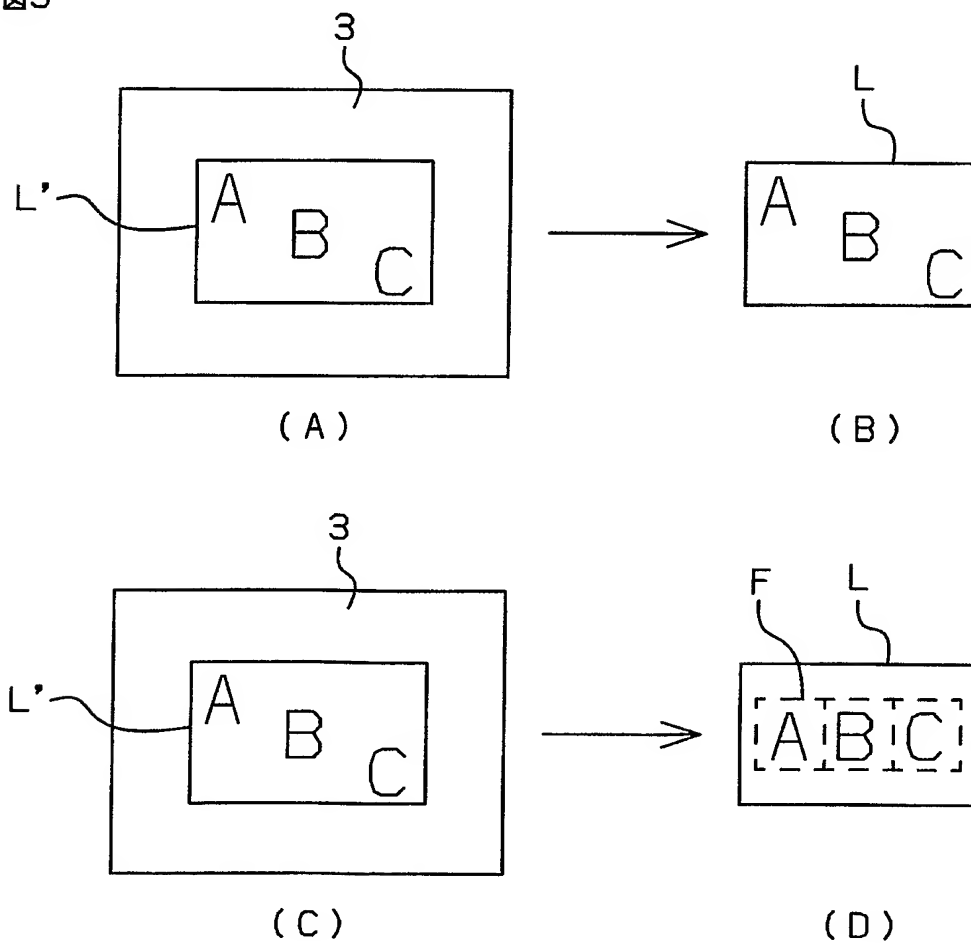
【図 4】

図4



【図 5】

図5



【書類名】 要約書**【要約】**

【課題】 ラベルプリンタにコンピュータを接続することができない場所においても、コンピュータのディスプレイに表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットでデータをラベルに印刷する。

【解決手段】 コンピュータ 2 がラベルプリンタ 1 に接続されなくてもコンピュータ 2 のディスプレイ 3 に表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベル L に印刷する第 1 の編集アプリケーションをラベルプリンタ 1 に設ける。コンピュータ 2 がラベルプリンタ 1 に接続されている時には、コンピュータ 2 に設けられた第 2 の編集アプリケーションを用いる。一方、コンピュータ 2 がラベルプリンタ 1 に接続されていない時には、第 1 の編集アプリケーションを用い、コンピュータ 2 のディスプレイ 3 に表示されたフォーマットとほぼ同様のフォーマットにデータを展開してラベル L に印刷する。

【選択図】 図 1

特願 2 0 0 4 - 0 4 8 8 2 2

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号

[0 0 0 0 0 6 3 0 1]

1. 変更年月日

2 0 0 3 年 7 月 2 4 日

[変更理由]

住所変更

住 所

東京都中央区日本橋箱崎町 6 番 6 号

氏 名

マックス株式会社